

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」  
中部大学COC+事業

# 特別セミナー

Vol.3  
参加無料

平成28年11月16日(水) 15:20~16:30 / 中部大学 不言実行館1階 アクティブホール

## PROGRAM

開会挨拶 ■ 15:20~15:25 ■ 中部大学 学監 / 地域・国際連携教育研究センター センター長 松尾 直規

講演 ■ 15:25~16:25 ■ 講演50分 / 質疑応答10分 ヤマザキマザック株式会社 副社長 長江 昭充 氏

## ===産業革命と工作機械===

18世紀半ばにイギリスで起こった産業革命は、250年の間に世界中に広がり、現代の我々の世界を豊かで活動的なものへと大きく変貌させた。産業革命とは、つまるところ鉄鉱石を始めとする原材料を地下から掘り出し、製錬して金属材料とし、それらを塑性加工や切削加工で部品の形に仕上げ、部品を組み立てて様々な機械を作り上げ、その機械を地下資源である石炭、石油、天然ガスなどのエネルギーで動かして、様々な人類に有用なモノを造り出すことで成り立っている。工作機械は、このうちの部品を造り出す機械を意味するが、機械を造り出す機械であるところから時として「Mother Machine」と呼ばれ、この良非で生産性が大幅に異なるところから、工業化を進める国の間では激しい開発競争が行われてきた。工作機械は、歴史的には産業革命に伴って英国で開発されたが、すぐに欧州大陸に伝播し、さらに米国で大きく発展した。日本では、1945年の敗戦によって、一時は工作機械の生産を禁止されていたが、独立後すぐに生産を再開し、1982年には、NC工作機械の量産と世界市場への輸出が好調だったおかげで、世界第1位の生産量を誇るようになった。この世界1位の座は、2008年のリーマンショックで大幅に落ち込み、中国に奪われるまで26年間に亘って続いた。現在は中国が生産量世界1位となっているが、技術的には遅れており、日本とドイツが技術1位の座を巡って競争している。

我々の住む中部地方は、日本の中でも工作機械産業が集積している地域であり、世界でも有数の工作機械生産地である。日本の工業の空洞化が叫ばれているが、工作機械は技術者の創意工夫と経験を積んだ優れた技能者の協力関係で生産されており、今後とも日本の得意分野として大切に育てていかなければならない分野である。

岐阜県美濃加茂市にある美濃加茂工場での成功例を基本にして、地域にも目を向けられる「地域」「活性化」「リスク管理」の3つのキーワードからの求められる人材像についても述べる。

優秀な学生諸君に工作機械産業に就職して、世界の工業の生産性を高める仕事で活躍してもらいたい。

閉会挨拶 ■ 16:25~16:30 ■

中部大学 工学部 部長 竹内 芳美

終了後は、就職ガイダンスを開催します。

中部大学 地域連携教育研究推進部

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地  
TEL.0568-51-1763 (直通) FAX.0568-51-4659

E-mail / [plus@office.chubu.ac.jp](mailto:plus@office.chubu.ac.jp)

HP / <http://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/>



中部大学